

## 研修報告書 No.32

研修先： 大月病院

この度、私は一ヶ月間大月町国民健康保険大月病院で地域医療研修を行いました。大月町は高知県の西南端に位置しており、土佐清水市と宿毛市の間に存在します。総人口は 4291 人、世帯数 2458 戸(令和 7 年 4 月現在)であり、大月病院は町に存在する唯一の病院です。病床数は 25 床であり、診療科は内科及び歯科口腔外科、それぞれ医師 3 名、歯科医師 1 名で診療を行っています。また、医療だけではなく、保健、介護、福祉などの多様な職種の連携により地域包括ケアシステムの実現に力を入れていました。例えば、入院患者さんの退院先を検討する際には、様々な職種の方が集まりそれぞれの視点から意見を出し合う、近隣の特別養護老人ホームである大月荘に週一回診察を行う、入所者の容態が急変した場合は、24 時間常に緊急対応できるようにするなど、まさに地域全体の健康を支えています。普段、周りに多くのクリニックや総合病院が存在する中で生活していた私にとって、そのような状況はとても衝撃的でした。一つの病院が大月町の方々の健康を守っているのかと考えると、大月病院で働いている方々の大変さは計り知れません。私もいつか地域全体の診療を担えるような医師になりたいと改めて感じることができました。

研修では、外来患者さんの採血や注射などの手技や、大月町周辺の患者さんや老人ホームなどの施設の入居者の方の訪問診療、入院患者さんの診察、他職種で行われる入院患者さんの今後の方針を検討するためのカンファレンスなどに携わりました。普段使用していない種類の注射針での採血や、方言で話す患者さんとの会話など、初めは慣れないことばかりで不安でしたが、病院のスタッフの方々がとても親切に接してくださり、充実した一ヶ月を過ごすことができました。

特に今回の研修で学んだことは、地域医療の難しさです。MRI が設置されていない、手術・カテーテル治療ができない、病床数・診療科が限られている等の条件の中でどのように患者さんのニーズに応えられるかについて、理解を深めることができました。限られた検査の中でどのように診断をつけるのか、直ちに転院し緊急的な処置をしなければいけない状況なのかなどに関して、どのように判断するかなど、今まで気にしていなかった地域医療特有の課題について考えさせられました。また、このような課題を目の当たりにし、すぐに MRI を施行でき、手術も行える環境が当たり前ではないことを実感しました。将来再び地域医療に携わる際には、このような限られた状況でも適切に診断・治療を行い診療できるようになりたいと改めて考えました。また、限られているのは資源だけでなく、医療スタッフも同様であると思います。大月病院では医師 3 名で平日の通常診療だけでなく、休日診療や夜間診療を行っており、大変驚きました。一方で、病院長を含めて全ての医師が年単位のローテーションで数年ごとに交代して勤務しており、地域医療の医師不足問題に対する良い解決策で

あると感じました。今回の研修を通して、医師や医療資源の地域格差が深刻化する現代において、実際の地域病院ではどのような体制で医療を提供しているのかについて理解を深めることができました。

また、週末は四国を観光することができ、大変楽しい週末を過ごすことができました。高知県のみならず、他県を観光する際にも大月病院の方に、お勧めのご飯屋さんや観光スポットを教えていただき、四国の魅力をたくさん感じることができました。大月町周辺の観光に連れて行っていただいた際に、だるま夕日を見ることができたことも忘れられない思い出になりました。

最後になりましたが、一ヶ月間貴重な経験をさせていただいた高知医療再生機構の方、大月病院の先生方、医療スタッフの方々、事務の方々に心より感謝申し上げます。